

第8回「人材育成・マッチング委員会」の実施について

2026年2月26日に第8回人材育成・マッチング委員会が法曹会館にて実施された。詳細については、下記の通りである。

(1) 経緯

2023年度より開始した「人材育成・マッチング委員会」では、海外鉄道技術協力協会が担うべき・期待される人材育成事業及び人材マッチング事業の具体的な方針・方策について、議論を重ね、人材マッチング事業においては、2025年6月より当協会のホームページを活用して、サービスを開始している。人材育成事業においては、2025年2月に全5日間の日程にて、第1回となる「2024年度海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」を実施した。その後、第2回目となる「2025年度海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」では、国際規格関係の講義を追加した全6日間のプログラムを2025年11月19日(水)～21日(金)及び26日(水)～28日(金)の全6日間にて実施した。

(2) 実施内容

第8回の人材育成・マッチング委員会では、主に4つの議題について議論を行った。

(1) 2025年度海外鉄道インフラ展開人材育成プログラムの実施結果について

2025年度人材育成プログラムのアンケート結果について報告を行った。総合平均満足度については、5点満点中4.73点と高い評価を得た。また、座学の講座においては、「海外ビジネス展開現場」(海外実務経験者)、「事業リスクと財務分析」(JARTS シニアフェロー)、「日本のTODと海外展開」(森地教授)の順に参加者の満足度が高かった。演習系講座においては、「提案演習」(TAO・OCG)、「日本の特殊性からアプローチする異文化理解」(TAO)、「契約交渉ロールプレイ」(TAO・OCG)の順に満足度が高かった。

(2) 2025年度海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム主要国事情の実施報告

プログラムの一環として実施した現地の鉄道を巡る最新情報を提供するオンライン講座のアンケート結果の報告を行った。本年度は、「オーストラリア」、「バングラデシュ」、「東アフリカ地域(タンザニア・ケニア・ウガンダ)」の3つのエリアの講座を設け、受講生は少なくともいずれか1エリアの講座を受講した。全ての講座において、総合平均満足度は、5点満点中4点以上の評価を得ており、特に「豪州の鉄道市場及び高速鉄道計画の動向」(在豪国日本国大使館)では4.38点と高い評価を得た。

(3) 2026年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」の実施予定について

2026年度において実施予定の人材育成プログラムについて報告を行った。これまでの運営・調整ワーキンググループ及びアンケートでの意見を踏まえ、講義と演習の実施順序の変更や講義時間の調整を行った実施スケジュール(案)を提示した。

(4) セッション4「ケーススタディ研修」の実施方針(案)について

2026年人材育成プログラムより実施予定の「ケーススタディ研修」の内容、教材作成方法について報告の上、議論を行った。プログラム内容の1つである、欧州の車両メーカーが納入遅延を起こし、納入後に安全上の問題により運行を停止したケースを学ぶことについて、委員からは、「本ケースを学ぶことにより、現在の欧州の車両メーカーがこのような失敗を起こさないように努めているということを知る上で非常に有益である。」といった意見があった。

(3) 今後の取組み

人材育成プログラムについては、2026年度をもって全てのプログラムの教材作成を完了し、プログラム開発期間を終了する。そのため、2027年度よりプログラムの受講を有償化のうえ実施していく予定である。



第8回 人材育成・マッチング委員会の様子



委員会にて発言される小林国際課長

2025年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」 開催要領

人材育成プログラム開催概要

- 実施期間：2025年11月19日(水)～11月21日(金)及び11月26日(水)～11月28日(金)
- 開催場所：11/19,11/26 JICA市ヶ谷(新宿区市谷本村町10-5)
11/20,11/21,11/27,11/28 JICA横浜(横浜市中区新港2-3-1)
- 参加予定人数：34名

人材育成プログラム実施体制

- 主催：一般社団法人海外鉄道技術協力協会
- 後援：独立行政法人国際協力機構、国土交通省、経済産業省、一般社団法人日本鉄道車両工業会、日本鉄道システム輸出組合

参加予定企業・団体(全34社・団体) ※2025年11月19日時点 (順不同)

業種	会社名・団体名
鉄道会社	JR東日本、JR東海、JR西日本、JR九州、JR貨物、東京メトロ、東急電鉄、京急電鉄、阪急電鉄
車両メーカー	日立製作所、三菱重工業、川崎車両、日本車輛製造、総合車両製作所
機器メーカー	日本信号、京三製作所、大同信号、三菱電機、富士電機、東芝、菅沼製作所
コンサルタント	オリエンタルコンサルタンツグローバル、日本工営、日本コンサルタンツ、パシフィックコンサルタンツ、長大
商社	住友商事、伊藤忠商事、三菱商事、ニシヤマ
国及び独立行政法人	国土交通省、経済産業省、国際協力機構(JICA)、鉄道建設・運輸施設整備支援機構

人材育成プログラム募集対象者

- 海外鉄道インフラ展開に従事する若手・中堅
- 20代後半から40代の参加を想定

人材育成プログラムの募集

- 募集時期：2025年6月2日(月)～7月15日(火)
- 参加費用：無料(プログラム開発期間のため)

2025年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」 実施スケジュール

セッション①②③ (要説編 + スキル実践編 + 専門研修)						
h	11/19(水)	11/20(木)	11/21(金)	11/26(水)	11/27(木)	11/28(金)
0900-	アイスブレイキング	海外マーケット動向 (NRI)	PPPスキームへの取組事例(OCG)	提案演習 (TAO・OCG)	日本の鉄道と欧州規格の比較(OCG)	契約交渉ロールプレイ (TAO・OCG)
1000-	キーノート・スピーチ (森地教授)	本邦企業による鉄道運営(JR東日本)	日本のTODと海外展開(森地教授)		国際入札プロセス (OCG)	
1100-	我が国の国際外交戦略(外務省)		公共交通とデジタル化動向(NRI)	プロジェクトマネジメント論(OCG)		
1200-		プロジェクトマネジメントシミュレーション (TAO・OCG)	車両製造マネジメント(LTM)		国際標準化の枠組と動向(国交省・鉄道総研)	貿易実務 (マウンハーフ)
1300-	海外インフラプラント輸出戦略(経産省)		参入機会検討ワーク (NRI)	国際市場からの技術的要求事項(ARUP)	事業リスクと財務分析概論(JARTSシニアフェロー)	日本の特殊性からアプローチする異文化理解 (TAO)
1400-	鉄道インフラの海外展開(国交省)			国際ビジネスにおける認証制度(交通安全環境研究所)	事業採算性の検証(ファイナンス専門家)	
1500-	我が国のODA 戦略と鉄道分野の協力 (JICA)		鉄道分野のFIDIC (OCG)	事業収支シミュレーション (TAO・OCG)	修了式・写真撮影	
1600-	ネットワーキングイベント(本年度及び昨年度受講生)				ネットワーキング交流会(関係者・受講生)	
1700-						
1800-						

注) NRI:(株)野村総合研究所 OCG:(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル マウンハーフ:(株)マウンハーフジャパン TAO:(株)TAO Partners LTM:LTMソリューションズ(株) ARUP:オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド

上記に加えオンライン講座「主要国事情」として、オーストラリア、バングラデシュ、東アフリカ地域(タンザニア、ケニア、ウガンダ)の3つのエリアの海外鉄道インフラ展開に関する情報提供を行うため、最低1エリア分の聴講をお願いします。オーストラリア:1/21(水) 13:30~16:00 バングラデシュ:1/28(水) 13:00~17:00 東アフリカ地域:2/6(金) 15:30~18:30

2025年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」 当日の実施の様子

■ 日本のTODと海外展開(森地教授)



■ 事業リスクと財務分析(JARTS 村崎人材シニアフェロー)



■ プロジェクトマネジメントシミュレーション(TAO・OCG)



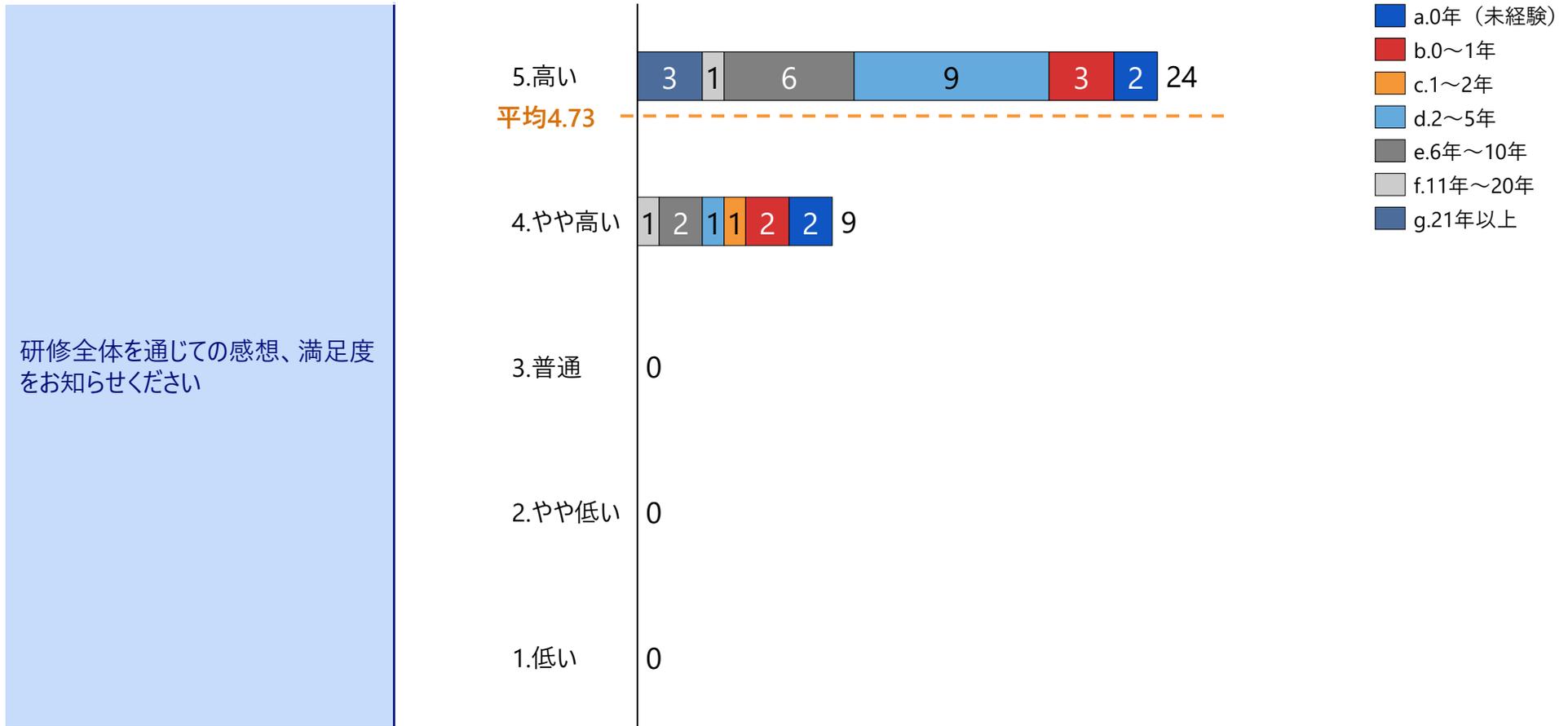
■ ネットワーキングイベント(本年度及び昨年度受講生)



海外業務経験年数の長さにはかかわらず全体的に、研修全体の満足度は高い評価を得た 特に、g.21年以上の参加者が全員5点をつけていたのは、プログラムの工夫が評価された のではないかと

総合満足度（海外業務経験年数（通算）ごと）

N=33人



2026年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」 開催要領(案)

人材育成プログラム開催概要

- 実施期間：2026年11月4日(水)～6日(金)、11月18日(水)～20日(金)及び
2027年1月28日(木)～29日(金) **全8日間**
- 開催場所：JICA市ヶ谷(新宿区市谷本村町10-5)
- 募集定員：36名(予定)

人材育成プログラム実施体制

- 主催：一般社団法人海外鉄道技術協力協会
- 後援(予定)：独立行政法人国際協力機構、国土交通省、経済産業省、一般社団法人日本鉄道車輛工業会、日本鉄道システム輸出組合

参加企業・団体 ※2025年度実績

業種	会社名・団体名
鉄道会社	JR東日本、JR東海、JR西日本、JR九州、JR貨物、東京メトロ、東急電鉄、京急電鉄、阪急電鉄
車両メーカー	日立製作所、三菱重工業、川崎車両、日本車輛製造、総合車両製作所
機器メーカー	日本信号、京三製作所、大同信号、三菱電機、富士電機、東芝、菅沼製作所
コンサルタント	オリエンタルコンサルタンツグローバル、日本工営、日本コンサルタンツ、パシフィックコンサルタンツ、長大
商社	住友商事、伊藤忠商事、三菱商事、ニシヤマ
国及び独立行政法人	国土交通省、経済産業省、国際協力機構(JICA)、鉄道建設・運輸施設整備支援機構

人材育成プログラム募集対象者

- 海外鉄道インフラ展開に従事する若手・中堅
- 20代後半から40代の参加を想定

人材育成プログラムの募集

募集時期：2026年度上半期中

参加費用：無料(プログラム開発期間のため)

※2027年度より有償化(税込25万円/人)を予定
次回委員会にて詳細を説明

2026年度「海外鉄道インフラ展開人材育成プログラム」 実施スケジュール(案)

セッション①②③ (要説編 + スキル実践編 + 専門研修)						
h	11/4(水)	11/5(木)	11/6(金)	11/18(水)	11/19(木)	11/20(金)
0900-	アイスブレイキング	本邦企業による鉄道運営(JR東日本)	PPPスキームへの取組事例(OCG)	提案演習(TAO・OCG)	国際入札プロセス(OCG)	日本の鉄道と欧州規格の比較(OCG)
1000-	キーノート・スピーチ(森地教授)	車両製造マネジメント(LTM)	日本のTODと海外展開(森地教授)		国際標準化の枠組と動向(国交省・鉄道総研)	海外ビジネス展開現場(メーカー)
1100-	我が国の国際外交戦略(外務省)		公共交通とデジタル化動向(NRI)	公共交通とデジタル化動向(NRI)	貿易実務(マウンハーフ)	国際市場からの技術的要求事項(ARUP)
1200-						
1300-	海外インフラプラント輸出戦略(経産省)	プロジェクトマネジメントシミュレーション(TAO・OCG)	参入機会検討ワーク(NRI)	事業リスクと財務分析概論(JARTSシニアフェロー)	国際ビジネスにおける認証制度(交通安全環境研究所)	日本の特殊性からアプローチする異文化理解(TAO)
1400-	鉄道インフラの海外展開(国交省)					
1500-	我が国のODA 戦略と鉄道分野の協力(JICA)					
1600-	海外マーケット動向(NRI)					
1700-				事業採算性の検証(ファイナンス専門家)	鉄道分野のFIDIC(OCG)	最終ラップアップ(NRI)
1800-	ネットワーキングイベント(~19:30)		ケーススタディ研修の取組方法(NRI・TAO)	事業収支シミュレーション(TAO・OCG)	契約交渉ロールプレイ(TAO・OCG)	修了式・写真撮影
						ネットワーキング交流会(関係者・受講生)

上記に加えオンライン講座「主要国事情」として、複数のエリアの海外鉄道インフラ展開に関する情報提供を行い、最低1エリア分の聴講を課す。
また、セッション4(ケーススタディ研修)を2027年1/28~29にて、対面演習の形で実施する(詳細後述、P8参照)

注) NRI:(株)野村総合研究所 OCG:(株)オリエンタルコンサルタンツグローバル マウンハーフ:(株)マウンハーフジャパン TAO:(株)TAO Partners LTM:LTMソリューションズ(株) ARUP:オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン・リミテッド

セッション4(新規作成ケーススタディ)の今後の進め方(案)

ケーススタディ研修の実施目的

- ケーススタディとしてリアルな事例を題材としたグループ演習・ディスカッションを経験することにより、実際のビジネスで当事者（ケース企業の経営者やプロジェクトマネージャー等）が直面する意思決定を、研修参加者が自らの視点で追体験し、「自分ならこう行動する」という議論を交わすことによって、変化に強い対応力と問題解決力を鍛える。

プログラム内容(案)

構成(案)	作成本数
海外の鉄道やインフラ展開に関する既存のケーススタディ	3本
本邦企業の海外インフラ展開に関するケーススタディ(新規作成)	1本

- 左記の研修は、1本につき3時間程度を既存プログラムに追加して行うものとする。既存の6日間の対面講義の後、1か月程度の期間を空けてケーススタディの内容を理解する時間を設け、2日間で4本のケーススタディを行うことを想定。

新規ケーススタディの選定に関する関係者との調整（本年度）

- 新規ケーススタディのテーマ選定に関する説明（2025年度）
 - ①現実に起こった問題解決や変革のストーリー
 - ②成功例だけでなく、乗り越えるべき困難を含んだもの
 - ③多くの参加者が直面する可能性のある課題

⇒ “ドバイメトロプロジェクト”を題材とし、三菱重工業株式会社のプロジェクト担当者へヒアリングを行うことで調整済。

ドバイメトロプロジェクトとは、アラブ首長国連邦のドバイにおいてRedLine及びGreenLineの2路線から成る全自動無人運転鉄道一式を作り上げたプロジェクトである。土木・建築工事を含むフルターンキー案件であり、車両・信号等の鉄道システム一式を三菱重工・三菱商事、土木・建築工事を大林組・鹿島建設・Yapi Merkezi(トルコ)の企業共同体が手掛けた。

新規ケーススタディの作成（来年度）

- 新規ケーススタディの作成プロセス
 - ①ラーニングポイントの仮設定
 - ②仮ストーリーの作成
 - ③ストーリーの確認、情報開示範囲の確認
 - ④関係者へのヒアリングと情報収集
 - ⑤設問とラーニングプロセス（迷わせ、考えさせるプロセス）の作成
 - ⑥ストーリーとティーチングガイドの作成
 - ⑦最終確認（情報開示範囲を越えていないか）

⇒ 2026年度、プロジェクト経験者より、3回のヒアリング（1回当たり1.5時間）をTAO Partnersが行い、設問及びラーニングプロセスを作成する。
作成の状況等について、委員会及び運営・調整ワーキングにて適宜報告、審議を行う。これを踏まえ、2027年度より、新規作成ケーススタディを実施する。

既存ケーススタディの実施方法(案)

ケーススタディ研修の実施スケジュール

- 6日間の対面講義を2026年11月中旬頃に実施した後、約2か月後の2027年1月末頃に、ケーススタディ研修を2日間実施する。
- 受講生はケース本文を対面講義初日に受け取り、約2か月の準備期間内にケースの内容の読み込みと事前課題(設問に対する意見の用意)を行う。なお、対面講義の期間中にケーススタディに関して解説する時間を設け、受講生における「ケーススタディ」に対する意識を統一させる。

実施プログラム(案)

- ケースの選定に当たっては、事務局にて各研究機関・大学における鉄道インフラ展開に関するケースを抽出し、2025年12月23日開催の第5回「運営・調整ワーキング」での議論を経て、以下の3本を実施することとした。

日程	タイトル	講師	議論内容	選定理由
1/28 午後	How a High-Speed Train Got De-railed	NRI 片桐エキスパート	1.オランダ・ベルギー間鉄道の適正な運行が果たされなかった主たる要因は何か？ 2.今後、旅客輸送サービスを維持することは可能か？ (失敗事例を学ぶケースのため、グループにて議論後、ケース内容と同種の経験をもった方の経験談を聞く講演・質疑応答を設け、失敗に対する対応についての学びを深める)	・入札、車両製造、運行について取り扱うため、幅広い業種の受講生がいる本プログラムに最適 ・2025年度受講生に対して実施したアンケート調査でも本ケースに関心がある受講生数が最多
1/29 午前	The Belt and Road Initiative in Africa: The Kenya Standard Gauge Railway	NRI 片桐エキスパート	2017年のナイロビ開業時点で、ケニア政府担当者としてナイロビ以北の鉄道を整備すべきか？整備する場合どのような方法か？	・受講生の多くが民間企業の者であり、政府視点という普段とは異なった立場から学べる ・ケース本文の情報に加えて、ケニアの鉄道に関する情報が収集できており、議論に向けた資料を追加で用意することが可能
1/29 午後	Teaming Up to Win the Rail Deal at GE	TAO Partners 大城社長	1.Jain氏は、どうやって短期間にアジャイルさを発揮する組織を作ったのか？ 2.2017年の組織変更で、Jain氏がカントリーマネージャーへのレポートラインを廃止したのはなぜか？ 3.Jain氏はこの後、どのような困難に直面すると予測するか？また、あなたがJain氏なら、それにどう対処するか？	・当プログラムの参加者は、将来的に組織をまとめ上げる立場になりうるものが想定されるため、将来の人材育成として有意 ・様々な職種や立場の多様な人材がいる組織を作り上げ動かしていくことを追体験できる本ケースは、これから海外で仕事をしていく若手・中堅の受講生にとって有益

- なお、教材の権利関係上、1/28午後と1/29午後のケース本文については英語での配布となる。その内容を受講生が理解するための方法については、各受講生の英語レベルに応じた創意工夫(IT技術の活用等)に委ねる。